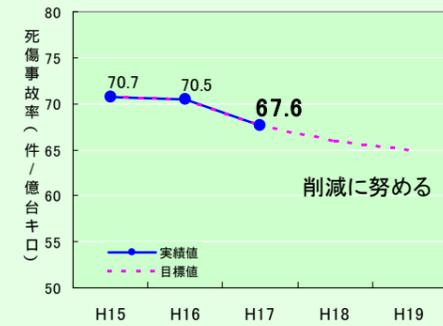


# ◎交通事故対策の推進

## アウトカム指標：死傷事故率

事故の少ない安全な道路整備を示す指標

指標解説 [死傷事故率=死傷事故件数/自動車走行台キロ]  
交通量及び延長(自動車走行台キロ)に対する死傷事故件数



## 山陽側の国道で多発する交通事故

山口県内の交通事故による負傷者数は10年連続で一万人を超えるなど依然厳しい状況が続いています。事故率は交通の集中する山陽側が高い傾向です。

死傷事故は国道で多数発生しており、特に国道2号の死傷事故率が高くなっています。



※交通事故総合データベース(H16)をもとに作成  
※一般県道以上を対象

平成16年 山口県内の死傷事故率

道路種別 事故発生件数

現状

## 事故多発箇所における重点的な対策実施

山口県公安委員会と道路管理者の連携のもと、特に事故率が高く対策が必要と認められる単路部や交差点を「事故危険箇所」に指定するとともに、歩行者や自転車の安全な通行を確保すべき地区を「あんしん歩行エリア」に指定し、これらの地域について重点的に交通事故削減に向けた対策を実施しています。

対策着手率

|           | 全箇所数 | 着手箇所数 | 着手率 |
|-----------|------|-------|-----|
| 事故危険箇所    | 55   | 40    | 73% |
| あんしん歩行エリア | 14   | 13    | 93% |

出典：H17年度道路行政の達成度報告書/H18年度道路行政の業績計画書  
平成18年6月(国土交通省道路局)



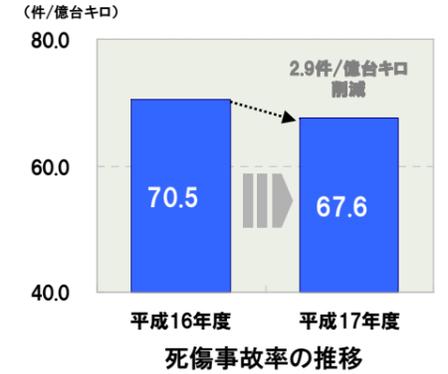
事故危険箇所及びあんしん歩行エリアの指定箇所

取組方針

# 平成17年度達成度報告

## 平成17年度の死傷事故率が削減

死傷事故率は平成16年の70.5件/億台キロから、67.6件/億台キロへ削減されました。幹線道路に着目すると5.0件/億台キロの削減となっています。



## 平成17年度は、主に事故多発箇所での発生要因を分析し今後の対策について検討しました。

交通事故の発生要因は様々であることから、対策にあたっては過去の事故発生要因を分析し、要因に応じた対策を検討する必要があります。

この観点から、平成17年度は、下表の地域における事故発生要因の分析を行うとともに、事故対策の立案等を実施しました。

これらの取り組みは、平成17年度の死傷事故率の低減には結びつきませんが、平成18年度以降の対策実施により、将来的には死傷事故率の低減に寄与する事業として掲載しています。

平成17年度実施した主な事業

| 事業主体  | 事業                              | 実施内容                | 紹介ページ  |
|-------|---------------------------------|---------------------|--------|
| 国土交通省 | 国道191号 萩市土原地区<br>交通安全ワークショップの実施 | 地域ニーズに即した交通安全対策案の立案 | ⇒23ページ |
|       | 国道2号岩国市錦見<br>事故対策決定             | 事故要因分析に基づく事故対策の決定   | ⇒24ページ |
|       | 国道190号宇部市大字東岐波<br>事故対策決定        | 経年観察に基づく追加事故対策の決定   | ⇒24ページ |

①国道191号交通安全ワークショップ  
・国道191号萩市土原地区において交通安全ワークショップにより具体的な事故対策案を決定しました。

②国道2号  
岩国市錦見事故対策決定  
・過去4年間で12件の死傷事故が発生している区間について事故対策を決定しました。

③国道190号  
宇部市東岐波事故対策決定  
・H14年の対策後、事故状況を経年把握した結果、更なる追加対策の必要性を確認し対策案を決定しました。

平成17年度の主な事業実施箇所

達成度報告